

佳作 かい星

福岡県
福岡市立東月隈小学校二年

伊藤 瑠星

ぼくは、ふた子のおとうとです。ふた子のおにいちゃんには、かい星です。かい星と一しよにうまれてとてもよかったと思います。

まい日、ごはんもおふるもねるのも一しよです。かい星がいるから、なんでも二ばいたのしいです。

おもちゃも、一人二こずつ買ったなら、こうかんしてあそべるし、友だちも二ばいできるし、おもしろくなるのも二ばいです。

でも、二人でいるから、大さわざして二ばいうるさくになります。だから、おかあさんにおこられるのも二ばい強れつです。

前に、ぼくが入いんしたとき、はじめてはなればなれになりました。かい星がないからたいくつで、何回もおかあさんに、

「早くおうちにかえりたい。」

と言ってこまらせました。たいいんしたとき、かい星がニコニコがおで、

「おかえり。」

と言ってくれて、ぼくはホツとして、あたたかい気もち

になりました。

だげどときどき、かい星は、ぼくのライバルになります。うんどう会の前は、どっちが足がはやいかきょうそうします。いつもぼくがまけるからくやしいです。かい星は字がきれいです。ぼくは、まけないようにいつばいれんしゅうするけど、なかなかきれいに書けません。でも、あんさんではまけません。ぼくが、あんさんけんてい二きゅうにごうかくしたとき、

「りゅう星すこい。」

と言って、じぶんのことのようによるこんでくれました。ぼくは、かい星にまけたとき、くやしくて

「かい星、ぜんぜんすこくない。」

と言うのに、かい星はほめてくれてやさしいなと思いました。

ぼくが、まい日たのしく生かすことができるのは、いつもとなりにかい星がいるからです。かい星は、ぼくのあいほうです。いつまでもなかくたすけあつていきたいと思います。

かい星いつもありがとう。

これからもよろしくね。